# 企業組合 県木住

第6回あおもり産木造住宅コンテスト優秀賞受賞

## 石井 昌史 様邸

ユーザー訪問

DATA
十和田市三本木字牛泊
2013年4月竣工
■延べ床面積／55.00坪（182.18㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台）、スギ（外壁、柱、床）、アカマツ（梁）など。

リビングの大きな窓ガラス越しに、お嬢さんが乗ったブランコが揺れている。その左側のハンモックにはもう一人のお嬢さん。掃き出し窓のすぐ外に設けられたウッドデッキで、姉妹が仲良く遊んでいるのだった。窓枠に切り取られたその光景が、スクリーンの映像のように映る。十和田市の住宅地でありながら、山の別荘に来ているような雰囲気を醸しているのは、ウッドデッキの背後に広がる緑の林。このロケーションが気に入って、石井昌史様はここに土地を求めた。施主が念願する、風景が生活に溶け込むような〝自然に囲まれた暮らし〟が、青森の山の木を使って建てる企業組合県木住の家づくりによって、実現した。

まるで山荘のようなウッドデッキで楽しそうに遊ぶ仲良し姉妹

### 自然を生かした暮らし 室内を風が吹き抜ける

**奥様の話**　県木住を知ったきっかけは、娘たちが以前通っていた保育園でした。当時は青森市に住んでいて、その保育園は、自然の食べ物を重要視する「穀物菜食」の保育園でしたから、アトピーがあるうちの娘たちを通わせることにしたんで

す。そこで知り合ったのが県木住の山﨑さんで、家づくりのことをお聞きしたら、「一度、相談にきてみたらいかがですか」とすすめられ、事務所を訪ねたのが〝一歩〟でした。

**ご主人の話**　最初は青森市内に土地を求める予定だったんですが、探してみたら、なかなか良い物件に恵まれなくて、それでもっと範囲を広げて探してみようと……。そうしたら、以前住んだことがあった十和田市に良さそうな物件があったので、妻と見に行ってみました。住みながら窓越しに自然の風景が眺められる――その条件にぴったり適う土地でした。仕事柄転勤はあるのですが、県南が主な範囲ですから、十和田に家を建てても車で通勤できます。念願の土地にめぐり会った思いで、その土地を買い求めたのが6月（２０１２年）。7月からプランづくりに入り、〝窓外の風景が生活に溶け込む〟をコンセプトに、じっくりと打ち合わせを重ねました。

**――家の中が涼しいですが、クーラーですか。**

**ご主人の話**　エアコンは初めから付けない考えでした。電気を使って冷房するのではなく、自然の風を利用しようと考えたからです。その方法を、図書館で勉強しましたよ。リビングの南側の掃き出し窓から入った風が、吹き抜けを通って、2階の北側の窓から抜けるようにしたので、風が熱を取り除いてくれます。リビングのすぐ外に屋根付きのウッドデッキを設けて、屋根が陽射しを遮るようにしたから、吹き込む風も涼しいですしね。それと、室内を他方向から風が通り抜けるように、東西にも窓を付けました。西側の和室から入った風が、真ん中のリビングを通って、東側のキッチンから抜けるように直線上に窓を付けました。いずれも本で学んだことです。思った以上に涼しくて快適なのは、風が湿気も除去してくれるからで

空気の流れを計算して設計された四季を通じて心地よいリビングルーム

しょう。

## 家全体をストーブ1台で窓下から温風吹き上がる

**——暖房は薪ストーブですか。**

**ご主人の話**　薪ストーブ1台で家全体が暖まるように工夫しました。つまり、ストーブの熱を家全体に循環させるわけです。炉壁の上部に設けてある吸気口からファンで暖かい空気を取り込み、床下のダクトを通って、リビングの掃き出し窓のそばから吹き上がるようになっています。それによって、窓のガラス伝いに降りてくる冷気が下から暖められ、暖気が2階へ上昇すると、2階の冷気がその暖気に押されて階段を降りてきます。暖気と冷気の循環がくり返されることによって、次第に室内全体が暖められてくるというしくみです。

**——玄関脇に『もみの木　つぶつぶ雑穀　cooking salon』という看板がかかっていましたが。**

**奥様の話**　ここでわたしが料理教室を開いているんです。つぶつぶとは、雑穀の愛称です。東北地方の人たちが昔から食べていたアワとかヒエ、キビなど、体に必要な栄養素が1粒にバランス良く含まれている雑穀を、単にご飯に混ぜるのではなく、ホワイトソースとかカスタードクリームとか、雑穀それぞれの持ち味を生かして料理を創作するんです。キッチンの

奥様が主催する雑穀を利用した料理教室の看板

ストーブの暖かさが吹抜けを通って2階も暖める

続きにある教室で、1回に4人から6人、1日置きくらいに開催しています。料理教室のほかにセミナーや、時にはパーティも開いていて、大人数でワイワイ楽しんでいます。

**ご主人の話**　家づくりに化学物質を使うと、出来上がった空間が不健康になることは、シックハウスの例をみても明らかですよね。それと同じで、体も、自然でない物を摂取し続ければ不健康になるはずです。家も、食も、自然のものに限ります。

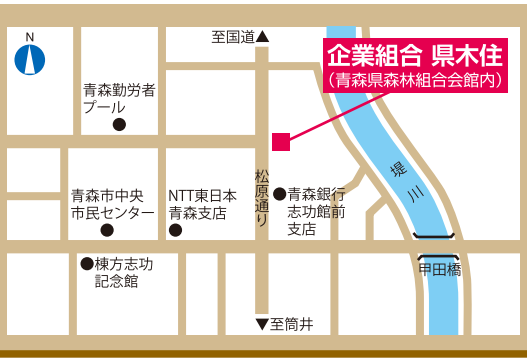
料理教室ではセミナーやパーティも開かれる

すぐ目の前に自然の風景が広がるウッドデッキでくつろぐ石井様ご一家


近くの山の木で家をつくる 企業組合 県木住

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25（青森県森林組合会館内2F・3F）
TEL.017-732-5333　FAX.017-732-5777
http://www.kenmokujyu.com　E-mail : info@kenmokujyu.com

# 企業組合 県木住

## 田村 清 様邸

ユーザー訪問

DATA
弘前市城南1丁目
2013年11月竣工
■延べ床面積／56.40坪（186.81㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台、和室の柱および建具、縁側床）、スギ（床、柱、建具、壁板）、アカマツ（梁）、セン（カウンター、炉縁）、神代ニレ（上り框、床柱）など。

「田舎にあるような家を建てたい」――田村様ご夫婦はその要望を、企業組合県木住の佐藤時彦代表理事に伝えた。昔どこの田舎にもあったような屋根が大きくて、縁側があって、縁側には障子が建ち、天井には梁が見え、和室には囲炉裏があり、台所の隣には漬物置場があるような家……。「山に住みたいくらい木が好きだから、室内は木に囲まれた空間にしたい」と奥様。リビングにはスギの大黒柱が立ち、天井にはアカマツの梁が見え、床はスギの無垢材、腰壁もスギの羽目板、和室回りはヒバ。念願叶った「田舎のような家」が完成するまでのお話を、薪ストーブの炎が揺れるリビングでうかがった。

### 人生の貯蓄を家造りに 図面手に訪ねた県木住

**ご主人の話**　家造りに対して妻は相当の思い入れがありました。時間があればパソコンに向かって間取りを作っていましたよ。実際、妻は、買いたい物も買わずに〝人生の貯蓄〟をすべて「家」にかけたんです。その図面を持って、県木住の事務所を訪ねたのが昨年（２０１２年）の５月でした。弘前にも工務店はありますが、真っ直ぐに青森の県木住を目指したんです。各社ともインターネットでブログを公開していますが、その中でいちばんよく読んだのが県木住のブログでした。気持ちにしっくりくるものがあったからでしょう。建築中とか完成した家とかの写真も載っていて、妻の希望する「田舎の家」のイメージに最も近かったんです。でも、初めから県木住に頼もうと決めて訪ねたわけじゃありません。何しろ初めて行くわけですから、まずはお会いして、

奥様の念願叶った「田舎のような家」を想わせるスギの床や建具

縁があれば話が進むだろうと考えていたんですが、佐藤さん（佐藤時彦代表理事）とお会いしたら、この人なら、と伝わってくるものがあって、結果的には1回で決まってしまいましたね。

**奥様の話**　それと、テレビで見たんですよ。県産材で建てた家を紹介する内容で、県の広報番組ということでした。その中で県木住の家が紹介されていたんです。わたしが建てたいと思っていた木の家とイメージが重なりました。

**ご主人の話**　私の「写真館」を建ててもらった大工さんもいるんですが、石膏ボードをばたばたと打ち付けて造ったので、その反動ですかね、ともかく自宅は、石膏ボードではなく「木」を使って、ばたばたではなく、じっくりと丁寧に造ってほしかったんです。

**――チェンソー体験もされたそうですね。**

**ご主人の話**　ええ、今年（2013年）の3月でした。チェンソーでスギを伐り倒したんで

時には料理にも使用するというリビングの薪ストーブ

懐かしい昭和の趣を感じさせるリビングルーム

す、妻と1本ずつ。そのうちの1本はリビングの8寸(約24センチ)角の大黒柱になって、もう1本は5寸(約15センチ)角の柱3本になりました。それと、リビングの内壁の珪藻土塗りも体験しました。もっと参加したかったんですが、妻も店(美容室)があるので時間がなくてね。

## 夫婦で中華料理楽しむ七輪を置き炭火料理も

**—キッチンが二つありますが。**

**佐藤代表理事の話**　田村様ご夫婦は中華料理が大好きで、夜7時過ぎにお仕事から帰ってくると、お二人でキッチンに立って、中華料理を作って食事をするのだそうです。中華鍋を使って、炎を上げ、煙を上げてワイルドに料理ができる空間をイメージし、IHヒーターの付いた標準的なシステムキッチンと、ガスコンロを置く中華料理用キッチンの二つを作ることにしたのです。炭火でも料理できるようにガスコンロの脇に七輪を置きました。薪ストーブでも料理を楽しむのだそうですよ。それから和室に囲炉裏を設けたのも、みな奥様のご要望です。奥様にはこの家にかける強い思いがありました。そばで、「妻の希望を叶えてやってください」と見守るご主人の姿がありました。

無線室がほしい——というの

田村様自ら伐り出したスギを使用した8寸角の大黒柱

昔にタイムスリップしたような感覚になるという和室の入口戸

和室に取付けられた昔懐かしい囲炉裏

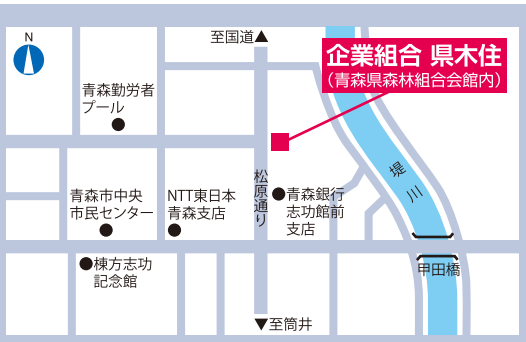
格子入りの引き戸が建つレトロな雰囲気を漂わせる玄関ホール

がご主人の唯一の要望でした。アマチュア無線が趣味で、外に立っているタワーが田村様邸のシンボルにもなっています。この高いタワー、ご自分で建てられたとのことです。台風19号（1991年）で最上部が折れる前はもっと高かったのだそうです。

**奥様の話**　佐藤さんに初め、「田舎っぽい家」にしてほしいってお願いしたんです。縁側があって、障子が建っていて、囲炉裏があって……。自分の頭の中にはそのイメージがあるんですけど、それを口頭で伝えるのって難しいですよね。うまく伝わってればいいなと現場の進み具合を見ていましたけど、建具が入った時点で、イメージが具体的な形となって現われ出しました。玄関ホールの格子入りの4枚の障子。リビングの内障子と、広縁の掃き出し窓の内側も障子。和風の雰囲気をつくり出す建具の存在ってすごいな、ってあらためて思いましたね。和室の入り口戸は、下半分が板で上半分が桟の入った障子。それが、廊下の板の腰壁と、床のスギ板にぴったり合っていて、昔の家にタイムスリップしたような感覚を覚えるんですよ。旧家風な外観も素敵だし、ほんとうにわたしのイメージを描き出したようにうまく形にしてくれました。

**■田村写真館**
弘前市元寺町61
電話0172-33-4572


近くの山の木で家をつくる 企業組合
県木住
企業組合 県木住
青森市松原1丁目16-25（青森県森林組合会館内2F・3F）
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777
http://www.kenmokujyu.com E-mail : info@kenmokujyu.com



# 企業組合 県木住

## 県木住の家づくりを支える大工たち

現場探訪

### 手間暇かけた家づくり 職人の協力あればこそ

**■むつ市、M様邸**

**㈱逢坂工務所チーム**

むつ市内に新築中のM様邸（第6回あおもり産木造住宅コンテスト最優秀賞受賞）へ県木住の軽トラが国道279号を北上していた。荷台に積んでいるのはテーブルカウンター。既製品ではなく、無垢材でこしらえた本物をという施主の要望で、アカマツを幅はぎした特注品を届けるのである。

軽トラを運転しているのは佐藤時彦代表理事。助手席に便乗し、現場で作業する㈱逢坂工務所チームの大工の撮影に向かった。むつ市のほか、この6月に同時に進んでいる青森市内2か所、弘前市1か所の現場の作業風景を写真に撮り、『青森県産材でエコな家づくり』Ⅳで紹介することになったのだ。

その趣旨を、佐藤代表理事はこう話す。

「木を多く使う家づくりは、それだけ大工の手間がかかります。外壁にも室内にも木をふんだんに使います。手間を惜しまぬ過程が大事で、施主にも工事に参加していただいているのは、手をかければわが家に愛着が生まれるからです。チェンソーで伐倒したスギで大黒柱を立てたり、スギ床に家族で自

（左から）須藤知光さん、逢坂司棟梁、須藤満央さん

逢坂工務所チームの施工によるむつ市のM様邸

然塗料を塗る作業も愛着を育てます。木と触れ合い、職人とも触れ合う『スローな家づくり』が県木住の〝売り〟で、それを理解してくれる大工はじめ職人たちがいてこそ成り立っているのです」

M様邸では、逢坂工務所チームの大工3人がそれぞれ持ち場で作業を進めていた。一人は玄関ホールでヒバの板を1枚1枚天井に張り、一人は外でウッドデッキの角材を刻み、逢坂司棟梁は和室の下地材を張っていた。仕事中の大工は寡黙である。

「これはM様がご自分で伐採されたスギです」と佐藤代表理事が玄関ホールに立つ大黒柱を指差す。祖父が所有する山で育ったスギだという。太さ1尺（約　30センチ）、高さ6メートルの大黒柱が、M様邸を支えていくのである。

10時の休憩時間に外で逢坂司棟梁、須藤知光（ともみつ）、須藤満央（みつてる）大工の3人に並んで座ってもらい、はいチーズ。チームワークばっちりのいい笑顔が光っていた。

## ■青森市浜館、S様邸
### 兼平建匠チーム

一見して県木住の家と分かる黒い板壁の外観は、青森市浜館のS様邸だ。昨年、S様が青森市内で開催された県木住の見学会に行ってみたら、施主のU様とはなんと高校時代の先輩後輩の間柄で、それをきっかけに話が進んだという。

玄関の奥から槌音が聞こえてくる。木材に当てたノミの頭を金槌で叩いているのは、兼平耕治棟梁。階段材を手刻みしているのだ。兼平棟梁は父親が営む兼平ハウスから独立し、現在は兼平建匠の代表である。

差し金を使って鉛筆で階段踏み板の線を引き、そこを掘って踏み板を差し込む。階段の側面板、階段の踏板が挟まるように斜めに切り、鑿（のみ）で掘る。緊張する工程で、ここをミスすれば材料が台無しになる。

兼平耕治棟梁（左）と久慈義孝さん

兼平建匠チームの施工による青森市浜館のS様邸

一方、2階でホール周りの手すり工事をしているのは久慈義孝大工。大正時代のものという年代物の鉋（かんな）で仕上げをかけていた。

休憩時間に二人並んで、はいチーズ。写真は苦手という兼平棟梁が撮影後に、「これからも県木住の仕事を主体に頑張っていきますよ」と意気込みを語る顔に笑みが戻った。

## ネットで工務店探し 定年退職しUターン

**■青森市中央、F様邸**
**天間建築チーム**

青森市中央のF様邸。施主のF様は神奈川県横浜市在住だが、もともと青森市出身。インターネットで工務店探しを始め、〝近くの山の木で建てる家づくり〟の県木住に行き着いた。

「遠方の方でも青森県の工務店情報を簡単に入手できるところがネットの便利さです。浅虫のC様もネットがきっかけとなり、私共で建築させていただきました。これからはUターンの方々にもどんどん発信していきます」と佐藤代表理事。

天間建築チームは3人。天間廣美棟梁は県木住創設当初からの古参である。仕事中は寡黙な大工たちだったが、ここでも休憩時間に笑顔を披露していただいた。

（左から）天間廣美棟梁、木村猛さん、奥瀬光博さん

**■弘前市城南、T様邸**
**澤田工務店チーム**

弘前市城南のT様邸では、澤田尚生（なおき）棟梁率いる大工4人が工事を進めている。向かい合って住宅が並び建つ路地を進んでいくと、ちょうどその日は大工の他に板金屋も入っていたため駐車スペースが塞がっていた

天間建築チームの施工による青森市中央のF様邸

が、斜め向かいの方の好意で庭先に停めることができた。佐藤代表理事が、「日頃いかに良い付き合いをしているかが分かりますね」。停めてくれた方にも、またご近所付き合いを大事にしているに違いないT様ご夫婦にも感謝。

T様が自宅に要望したのは、「木の家」「田舎風にしたい」「薪ストーブ」の3項目。ネットで検索したら県木住がヒットした。

「これから伺っていいですか、とT様から電話がかかってきました。まだお会いしていないのに、もう当社に決めてくださっているような口ぶりでした。県木住の家づくりに理解を示してくださったのですから、当社のスペシャルメニューのチェンソー体験で大黒柱にするスギを2本伐り倒していただきました」と佐藤代表理事。そのうちの1本が、リビングに立っている8寸(約24センチ)角の大黒柱である。

休憩時間になって、大工たちにカメラを向ける。「シャッター押すのは、今でしょ!」と声をかけたら、4人の顔からそろって笑いが弾けた。

T様邸の脇に、屋根を超えて鉄塔がそびえ立っている。ご主人の趣味の無線のタワーだ。県木住の家の快適さが、電波に乗って全国に発信されるかもしれない。

(左から)小笠原竜一さん、秋元孝司さん、澤田尚生棟梁、長尾明さん

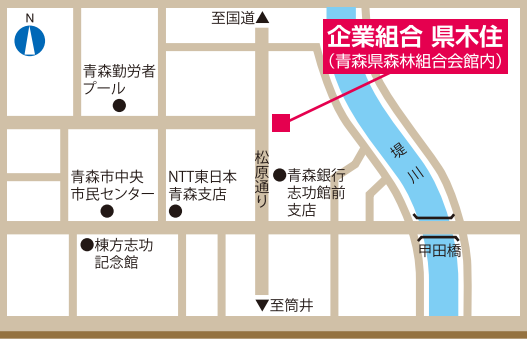
澤田工務店チームの施工による弘前市城南のT様邸

近くの山の木で家をつくる 企業組合

県木住

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25(青森県森林組合会館内2F・3F)
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777
http://www.kenmokujyu.com E-mail : info@kenmokujyu.com



# 有限会社 桜庭工務店

## あゆみデイサービスセンター

ユーザー訪問

DATA
弘前市馬屋町9-7
（県立弘前工業高校前）
2013年7月竣工
■床面積／平屋建て30.00坪（96.67㎡）
■使用青森県産材／スギ（柱、床、外壁）など。

桜で有名な弘前公園、岩木山の借景が見事な藤田記念庭園の近くに完成した木造平屋の建物を、ひと目でデイサービスセンターと言い当てる人はまずいないだろう。スギ板を縦張りにした板壁の外観。南側の大きな窓を庭の植え込みが囲む佇まいは、どう見ても一戸建ての住宅である。自宅のような雰囲気で介護が受けられ、木の温もりを感じられる施設を建てよう――。「いちばん心休まる場所は自宅ですからね」と話すセンター長。依頼した先は、県産材の家づくりで実績のある㈲桜庭工務店であった。

### くつろげる木の空間 定員10人で家庭的に

――施設名の「あゆみ」はどんな意味なのでしょうか。

**センター長の話**　利用する方々の人生の「あゆみを尊重する」という意味です。これまでの人生の「あゆみ」を尊重し、これからも日常生活を楽しく過ごしながらあゆんでいけるようにお手伝いします、という意味を込めています。

――定員は10人ということですが、小規模な施設にしたのはどのような趣旨からですか。

**センター長の話**　自分が将来、世話になりたいような施設を目指しました。まず、大きな施設ではなく、小ぢんまりとした施設であること。小ぢんまりとしていたほうが落ち着きますよね。大きな施設だと利用する方も多いですし、人間が多く集まると、人と人との摩擦なども発生します。それでだんだん利用する方も行きたがらなくなる例があるようです。その点、小ぢんまりしていればスタッフの目が行き届き、細やかな対応ができますから、利用する方が安心するのではないで

一般家庭のようなあたたかさが感じられる玄関スペース

床にも天井にもスギをあしらった広くて明るい空間は一般家庭のリビングのよう

しょうか。「小ぢんまり」には、「家庭的な」という意味も含まれます。玄関を入ると、一目で見渡せるワンフロアにしたのは、自分の家の、リビングに入ったというような雰囲気を出すためです。自宅のような雰囲気にするために、床にはスギの無垢材、天井にもスギを張って、見た目に柔らかな木の空間にしました。無垢の床は感触が柔らかいし、保温効果があって冬場も温かいのは（センター長の）自宅で経験済みです。

**——大きな窓から庭が眺められて、これも家庭的な雰囲気に一役買っていますね。**

**センター長の話**　窓からは、

スギに囲まれた柔らかな木の空間は心が和らぐ

庭だけでなく、すぐそばに県立弘前工業高校があって、高校生たちの歩く姿がよく見えます。体育の時間とか、昼休みとか下校時に、生徒たちが並んで楽しそうに歩く姿が窓ガラスのすぐ外に見えるんです。高校生の弾ける笑顔はとてもエネルギッシュで、見ているだけで元気をもらえるような気がします。利用する方も内心、それぞれのかつての青春時代に思いを馳せているかもしれませんね。

## 自転車仲間の桜庭さん「いい家建てる工務店」

**――桜庭尚利社長とは以前からのお知り合いのようですが。**

**センター長の話**　自転車仲間なんです。私がサイクリングを始めたのは8年ほど前ですが、桜庭さんはもっとずっと前からで、大先輩です。「家の本」(『青森県産材でエコな家づくり』Ⅱ)で紹介されていた佐伯尚幸さん(弘前市)も同じ仲間ですよ。桜庭さんが工務店を営んでいて、木を使ったいい家を建てていることは知っていましたし、佐伯さんのところも素敵な家でした。桜庭さんのきちんとした性格が仕事にも表れていて、施設の8月オープンに合わせて工期を守ってくれるという信頼もありました。設計は、札幌の建築家(宮島豊氏)に頼みました。私の自宅の設計をお願いした縁で、施設も頼みました。

**――「建物」も「食」も自然素材にこだわっているそうですね。**

**センター長の話**　建物の外部

清々しい木の香りが入所者に好評なヒバの風呂。自宅の浴室のような心地よさを味わえる

化学調味料は使わないこだわりのメニューが提供されるキッチンスペース

も内部も自然素材の「木」（県産スギ）です。さっきもお話ししましたように、木は見た目に柔らかいし、感触も温かいし、それだけで和らぎますよね。浴室も壁と天井はヒバです。清々しいヒバの香りは好評で、自宅の浴室のような心地よさを体験できるはずです。食事も、化学調味料は使わない（鰹だしなど）メニューにこだわっています。定員10人の少人数で、時間の流れが緩やかな空間で日常生活を楽しく過ごしてみませんか。

**■あゆみデイサービスセンター**

弘前市馬屋町9-7
電話0172-55-8757
［サービス内容］
入浴、食事、機能訓練、ハンドマッサージなど
［ご利用日］
月曜日～金曜日
（12／31～1／2を除く）
［ご利用時間］
午前9時30分頃～午後4時30分頃
（営業時間は午前8時30分～午後5時30分）

『気創りの家』
有限会社 桜庭工務店
弘前市大字外崎4丁目2-6
TEL.0172-27-4320 FAX.0172-27-4325
http://saku-kou.com
E-mail:sakura52@amber.plala.or.jp

# せんだい建設

## 木村 様邸

ユーザー訪問

DATA
平川市高畑
2013年11月竣工
■延べ床面積／54.50坪（180.52㎡）
■使用青森県産材／スギ（柱）、カラマツ（梁）など。

同じ地域に生まれ、育ち、同じ小学校、中学校に通い、社会に出てからも郷里を離れることなく地元で働いてきたお二人――木村様と仙台芳美社長。近所に住んでいた同期生たちが誘い合って1キロほど先の小学校に通ったときの光景が、今でも木村様の記憶に刻まれているという。定年退職を1年後に控え、木村様は自宅の新築を幼馴染みの仙台社長に依頼した。「建てるときには頼むと決めていました」と木村様。永年の友情が〝家の形〟となった木村様邸を取材した。

### 「とにかく暖かい家を」以前の寒さとは別世界

**ご主人の話**　仙台社長とは小学校のときから一緒に通学した仲です。この近所に同期生が8人住んでいまして、学校へ行く途中に寄る彼の家がいちばん最後なんですよ。そこから8人で小学校に通ったんです。歩いて20分くらいでしたね。学校を卒業してからは、それぞれ社会に出て、仕事は違いましたけど、あれから半世紀を経て幼馴染みに家を建ててもらったのですから、こういうふうに深くつながっているところが地元の良さですよね。

**――他社の展示場や見学会の**

台所から家族の表情が見渡せる開放的なスペース

**家とかはご覧になりませんでしたか。**

**奥様の話**　今風の家づくりはどうなっているかなって、住宅展示場は何か所か見学しましたよ。でも、あらかじめ担当者に、「うちはお願いするとこが決まっています」ってお断りしてね。期待させちゃ迷惑になりますから。

**ご主人の話**　それまで住んでいた家が築42年で、断熱材は入っていませんでしたから、とにかく寒くてね。寒い寒いと言いながらも何十年も暮らしてきたんですが、定年が迫ってきましたし、消費税の件もありますから、今年（２０１３年）建てることにしたんです。解体工事のときに見てみたら、畳を起こした床下はすぐ土で、これじゃ寒いわけですよ。もちろん壁の中にも断熱材は入っていませんでした。それで仙台社長に、とにかく暖かい家にしてくれって頼みましたよ。

落ち着いた風情を感じさせる和のスペース

窓からリンゴ園が眺められる明るい洋室

キッチンとひと続きになったリビングルームは洗練されたセンスを感じさせる

**奥様の話**　ついこの間引っ越してきたばかりなんですけど、室内の暖かさだけはよく分かります。あったかくてあったかくて、以前の家に比べればまるで別世界ですよ。

**ご主人の話**　プランづくりは仙台社長が担当してくれました。玄関を真ん中に取った場合と、角に取った場合、それと階段の位置を変えたプランを何度も何度も書き直してくれて、じっくり検討しましたよ。でもやはり、この土地に合うベストのプランは一つで、それが完成したこの家の間取りです。

　室内の細かな造作などは社長からバトンタッチして専務（仙台慎吾専務）が担当してくれました。リビングの床にフラットにして畳のスペースを設けたい、というのが私の要望で、ぴったり合う畳調フロアを敷いてくれました。それと流し台はどのメーカーのものにするかとか、作り付けの棚は何段にするかとか、細かなこともいろいろと……。社長のことも専務のこともよく知っているので、何を頼むにしても安心感がありました。それに、せんだい建設の評判もいいですしね。いくら幼馴染みといっても、芳しくない評判が耳に入ってくれば、ためらいますよ。

## 家業の工務店受け継ぐ地元の人と木を大事に

**――キッチンの脇にドアが付いていますが、隣は部屋ですか。**

**奥様の話**　と思うでしょう。天井までの高さの立派なドアだから、皆さん、開ければ部屋になっていると思うようですけど、洗面室と浴室なんですよ。リビングにも同じ高さで同様のデザインのドアが付いていますが、そこも開けると勝手口なんです。もったいないくらい良いドアですけど、その分、リビングやキッチン側から見える雰囲気はぐっと良くなりました。専務さんのセンスですね。

**ご主人の話**　上棟式のときに

リビングの床にフラットにして設けた畳調フロア。ダイニングテーブルの脇の大きなドアは勝手口に通じる

キッチンとダイニング、リビングがワンフロアとなった広い空間もしっかりした断熱施工により暖かい

感じたのは、ずいぶんと木を多く使っているな、ということです。木が多い、ということだけで、何の木なのかは分かりませんが、専務さんによれば、スギやカラマツなどの県産材を構造材として多く使っているということでした。家がまだ骨組みの状態のときに、木がいっぱい使われていると、いかにも丈夫そうに見えますね。気分のいいものですよ。

仙台社長が進んで県産材を使っているのは、地元を大事に考えているからだと思うんです。家業の工務店を代々受け継いでいくためには、地元で信頼を得ていなければ仕事はついてきませんからね。仙台社長は父から継いだ2代目で、次は専務が3代目を継ぐわけです。山で同じように世代交代している木々も〝同士〟という思いがあるのではないでしょうか。

県産の木をいっぱい使って、念願どおりに「暖かい家」にしてくれました。


せんだい建設

平川市高畑前田155-2
TEL.0172-44-8545 FAX.0172-44-8547
http://www.sendaikensetu.com
E-mail : info@sendaikensetu.com

# 玉田工務所

## 田澤 様邸

ユーザー訪問

DATA
中津軽郡西目屋村
2013年4月竣工
■延べ床面積／57.00坪（188.80㎡）
■使用青森県産材／（国土交通省の補助事業「地域型住宅ブランド化事業」を活用した青森県産材使用の長期優良住宅）スギ（外壁、構造材）など。

待ち合わせ場所は、西目屋村の入り口にある物産センター。時間は午後1時。駐車場の端に停めて待っていると、玉田健悦棟梁（玉田工務所）の車がやってきた。今回紹介する田澤様邸まではそこから10分ほどらしい。車の後からついていく。真っ直ぐ進めば目屋ダムに至る一本道から折れ、集落へ入ると、真新しい板壁の家が目にとまった。案の定、玉田棟梁が、「ここです」と指差した。曇天から雨が落ちてくる前に、建物の背後に回って、大きな窓が並ぶ南側からカメラを向ける。屋根越しに紅葉の山が迫る別荘のような「絵」を写し撮った。

### 落ち着いた渋い色合い 夫婦好みの〝玉田カラー〟

**奥様の話**　玉田さん（玉田工務所）の家と出会ったのは、住宅雑誌でした。ぱらぱらとページをめくっていて、目が惹かれました。第一印象は〝渋い感じ〟。室内の木の黒っぽい「茶色」と内壁の「白色」の組み合わせが渋く見えたんですね。好みでした。その雑誌は、姉が8年前に家を建てるときに買い集めたものです。それを譲り受けて参考にしました。

**ご主人の話**　母が一人で住んでいた家がだいぶ古くなってきたので、解体して二世帯住宅を建てる――という計画でした。

美しい景観の中に建つ別荘のような趣を感じさせる田澤様邸

独自の渋い色合いで統一されたリビングルーム。全体にやわらかな雰囲気に見えるのは壁の角を丸めているから

さっき妻が話した住宅雑誌を私も見て、玉田さんの家にひと目で惹かれました。色合いが落ち着いていて、空間に奥行きがありますよね。独自の〝玉田カラー〟って言うんでしょうか。雑誌は年に1回発行になっているようで、妻の姉から何冊か頂戴しましたが、目にとまるのは玉田さんのページだけでした。上の子供が中学に上がる頃に家を完成させようと、取りあえず玉田さん(玉田健悦棟梁)に相談しに訪ねていったのが昨年(2012年)の3月でした。

**奥様の話**　玉田さんの自宅の隣の『リフォーム展示場』(弘前市南城西2-7-3)を拝見して、本物の〝実感〟が伝わってきました。ああ、これこれ、ってつぶやきながら見ていましたよ。初めてお会いした玉田さんは、営業マンのように口数は多くありませんでしたけど、ちゃんと

西洋建築を想わせる壁をくりぬいて飾り棚を配置したニッチ

した家をつくるという自信が感じられました。

**ご主人の話**　『リフォーム展示場』の内壁のアールって言うんですか、角が丸くなっているのに気がつきました。そういう部分は雑誌の写真だけでは分かりませんね。それから、「家の本」(『青森県産材でエコな家づくり』Ⅲ)に載っていた菊池様邸(青森市)も、角が丸まっていました。丸いから室内が柔らかに見えるんですね。

## ロフトがベッドルーム 寝室がまるまる使える

**奥様の話**　2階の3室には、ロフトが付いています。私たち夫婦の寝室と、2人の子供たちの部屋ですね。子供部屋のロフトにはハシゴがかかっていますが、寝室はハシゴではなく、玉田さんが居間階段と同じ造りにしてくれたんです。そうしたら初めはロフトを物置にする予定だったんですけど、もったいなくなって、そこを寝るスペースとして使うことにしたんです。

ロフトがベッドルームになったおかげで、寝室がまるまる使えて、夫婦の居間がもう1部屋できたみたいです。それと、階段下のちょっとしたスペースにカウンターを付けてくれたので、〝わたしの場所〟として使っています。気に入っているんですよ、そこ。

**――階段を上がっていったホールにオモチャがいっぱい飾られていましたが。**

**ご主人の話**　「フィギュア」っていう、人のかたちを模した人形なんです。ジャンプ(「週刊少年ジャンプ」)に連載中の「ワンピース」(ONE PIECE)っていうマンガに出てくるんですよ。それを集めているんです。ネットのオークションとか、ゲームセンターのUFOキャッチャーとかでね。

**奥様の話**　家を建てる前は村営住宅に住んでいたんですけど、部屋からあふれるくらい「フィギュア」があったんで、どこか収納する場所がほしいって玉田さんに話したら、階段ホールのちょうどいい場所にうまく作ってくれました。パソコンカウンターも付いていて、主人の書斎みたいなスペースになって

ロフトがベッドルームになっているご夫婦の寝室。下の空間がまるまる使える

落ち着いた風情を漂わせるリビング続きの小上がりの和室

います。

**ご主人の話**　家が完成して、さっそく仲間たちと庭でバーベキュウをやりました。キッチンのドアからすぐ庭に出られるし、玉田さんがドアの外にウッドデッキを作ってくれたので、すごく出入りがしやすくてね。バーベキュウやりながら、庭からわが家を眺めるのが楽しみだったんですよ。このあたりは白神山地の入り口ですから山に囲まれていて、別荘にきたみたいな気分なんですよ。板を張った外観もそうだし、室内も梁とかが見えていて山荘っぽいし、リビングから外の風景を眺めても、ベッドルームのロフトで目覚めたときも、どっかの別荘にきているみたいな感覚になって、いいなぁ、って思っているんですよ。

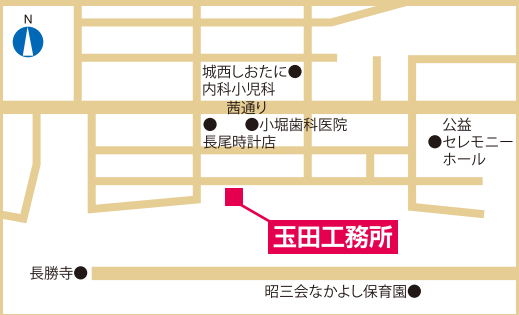
階段下を利用して造られた奥様お気に入りのスペース

書斎スペースにズラリと並ぶご主人の趣味のフィギュアの数々

“津軽の家”

# 玉田工務所

弘前市大字南城西2-7-4
TEL.090-2604-2967
http://www.tamada.e-arc.jp/
E-mail : sumai@tamada.e-arc.jp



# 三浦住建

## バーンズ 様邸

ユーザー訪問

DATA
平川市
2013年9月竣工
■床面積／平屋建て47.00坪（155.68㎡）
■使用青森県産材／（国土交通省の「地域型住宅ブランド化事業」を活用した青森県産材使用の長期優良住宅）アカマツ（床、勾配屋根）、ヒバ（土台）、カラマツ（構造材）、スギ（柱、一部外壁、屋根板）など。

土曜日の午前9時30分。始まった地元のテレビ番組に、法被（はっぴ）をまとった2人の男性が登場した。流暢に日本語を話しながら歩いているアメリカ人が、ミスター・バーンズ。今回ご紹介のバーンズ様邸の施主である。本業は英会話スクールの講師だが、津軽三味線も弾きこなすというユニークなキャラの持ち主。学校の教師をされているという奥様とハッピィに暮らす新居を拝見した。

### 「うちの父さん工務店」売り込んだのは孝行娘

――ここに土地を買って建てられたのですね。

**奥様の話**　そうです。初めは、いきなり新築ではなく、中古住宅を探すことから始まったんです。あちこちずいぶんと見て歩きましたけど、周囲にリンゴ園が広がるこの土地がいちばん気に入りました。でも、建っていた家があまりに古すぎて、とても使えないようでしたから、じゃ壊して新しく建てようということになったんです。

わたし、学校の教師をしてい

外観はまさにアメリカンハウスそのもののバーンズ様邸

まして、この家には今のところ週末にしか帰ってこられないんですが、来れば、ソファに座って外を眺めているんですよ。リビングから眺める外の景色がとっても素敵なんです。掃き出しの大きな窓いっぱいに空が見えるし、今はもうリンゴが摘み取られちゃいましたけど赤いリンゴの実がたわわのときはいかにも津軽っていう風景だし、春にはリンゴの花も見られるでしょうから、良い土地に恵まれました。いずれ子供が生まれたら、リビングの外にウッドデッキを作って、のびのびと遊ばせるつもりです。その光景を眺めるのも楽しみですね。

**——三浦住建に依頼されたきっかけは何ですか。**

**奥様の話**　専務さん（三浦和也専務）の小学生の娘さんが、主人の英会話スクールの生徒なんです。家を建てたいという主人の話が娘さんの耳に入ったんでしょう、「うちの父さん、工務店だよ」って言ったらしいんですよ。しっかりしたお子さんで、自分の父親を売り込んだんですね。それで決まりです。

平屋建てを感じさせない開放的な吹抜部分

広々としたリビングルームもまたアメリカンスタイル

**――アメリカンハウスの外観はご主人の要望ですね。**

**奥様の話**　平屋ですけど、2階建てに見えるくらい屋根を急勾配にして、外壁に鮮やかなレッドのサイディングを張り、外観はまさに向こう（アメリカ）でよく見かけるアメリカンハウスそのものです。内観もほとんど主人の要望ですね。アメリカ人って広くて大きいものをステータスにしていますから、家の中心はまずは「広いリビング」なんです。この家も、キッチンとリビング、その続きのフリースペースを含めますとワンフロアで54帖もあります。天井も吹き抜けですから、この開放感には主人も満足しているようです。

**――言葉とか、打ち合わせで困ったことは？**

**奥様の話**　ほとんどありませんでしたよ。主人は日本語を話せますが、でも、言葉が通じてもアメリカ人と日本人とでは〝感覚〟が違いますでしょ。そのへんが専務さんもたいへんだったとは思うんですけど、外壁とか、内装材の色とか、見本を使ってきめ細かに打ち合わせをしてくれたので、仕上がってから、ここは違う、といったことはありませんでしたね。

壁の白、梁の黒、そして木肌のコントラストが美しい色のハーモニーを奏でる

## 省エネの長期優良住宅 薪ストーブ1台で暖房

**――暖房は薪ストーブだけですか。**

**奥様の話**　ストーブは主人が弘前の販売店から購入しました。最近はアメリカでも暖炉よりは薪ストーブが主流になってきていますから。それでも、なにしろこの広い空間なので、ストーブ1台だけで大丈夫かって思っていたんですけど、まだ10月なので何回かしか使ってい

ませんが、主人は寒いとは言っていませんでしたよ。寒さはこれからですけど、専務さんが建物の断熱性は高いと言っていましたからその言葉を信頼しています。

**三浦専務の話**　バーンズ様邸は「地域型住宅ブランド化事業」を活用して建てています。これは国の補助事業で、それぞれの地域の木材を使用し、性能の高い長期優良住宅の建築を支援するものなので、耐震や断熱など規定の基準を満たしていなければ補助金の適用が受けられません。青森県は省エネ等級4で、北海道に次ぐ厳しい基準になっています。それを満たすためにバーンズ様邸には、天井はウレタン吹き付け120ミリとグラスウール180ミリを併用し、壁はウレタン100ミリを使っています。さらに基礎はミラフォーム50ミリで内側と外側から挟んで万全を期しています。

**――子供部屋がないようですが、将来増築される計画ですか。**

**奥様の話**　ええ。フリースペースの隣のゲストルームの上に造ろうと考えています。そのことは初めから専務さんにお話しして、増築しやすいプランにしてもらっています。それと、近くに小学校があるので、将来、英会話スクールを開いても良いようにフリースペースを設けました。今は夫婦と愛犬との暮らしですけど、将来的な変化に対応しやすいように間取りを初めから細かく区切らずに広く取ってあるんです。

キッチンの背後に設けられた造り付けの棚は、教師をされている奥様の書棚として使える


職人の技を生かした住宅を!

三浦住建

弘前市取上3丁目2-6
TEL.0172-33-0597 FAX.0172-33-0597